

# 文京通信

ふみのみやこ

文部科学省認可通信教育

放送大学東京文京学習センター

機関誌 No.17

2024年3月発行



湯島天神（湯島天満宮）は、東京都文京区湯島三丁目にある学問の神様として全国的に有名な神社です。458年に創建され、1355年に菅原道真公を勧請し、以来多くの学者、文人に崇敬されています。

## 目次

表紙	P1
退任される先生方からのご挨拶	
客員教員 河村 哲也	P2
客員教員 小林 雅之	P3
客員教員 細谷 浩史	P4
おすすめの本の紹介	
— series この一冊 —	
所長 熊野 純彦	P5
客員教員 小又 志郎	
公認学生団体(サークル)の紹介	P6
行事のご報告	P8



## 退任される先生方からのご挨拶

### 「4年半を振り返って」

#### 客員教員 河村 哲也



この年度末で任期満了になり退任することになりました。2019年10月の年度途中で着任し、4年半勤務したことになります。私にとって貴重な経験でしたが、あっという間であった気がします。この4年半の間にいろいろなことがありましたが、なんとといってもその間に新型コロナの流行があり、長期間来校禁止の措置がとられ、面接授業も数が大幅に減った上にリモートで行うということになりました。また客員教員が担当できる客員ゼミについても、私のゼミの場合は対面で行わないとあまり意味がないため、長期にわたり開講できませんでした。そのため新型コロナが第5類に移行した直後の昨年6月から初めて2つの客員ゼミを担当いたしました。ゼミ生はみなさん熱心で、私自身にとっても大変有意義でした。さらに昨年4月に卒論生を1人もつことができ、本人の努力によって立派な卒論になったことは私にとって喜ばしいことでした。

あと、私が客員教員として行ったことに、教育関連では環境科学関連の講演、流体力学の初歩に関するWEB授業、学習相談、非常勤講師の紹介（10人近く紹介したのですが、みなさんととても評判がよいと事務の方から伺いました）、また面接授業としては数値計算や数値シミュレーション関連および教養数学（微分積分）の授業も受け持ちました。その他、放送大学の教材に対するアドバイスや放送授業の評価も行いました。さらに、基本毎月開催されるセンター会議への出席、学習センターの大切な行事である入学式や卒業式、クラス会には積極的に参加しました。

私の専門はコンピュータを駆使する流体力学関連の数値シミュレーションですが、新型コロナが流行していたとき、当時の林所長から、教室内の効率的な換気の相談を受けました。そのとき、1つの講義室をモデルにして簡単なシミュレーションを行い、数々の制約条件（たとえば真夏や真冬では保温のため窓は全開にできないなど）のもと最善と思われることを提案いたしました。なお、シミュレーションを行っていて気付いたこととしては感染症に対するマスクの重要性でした。ウィルスは空気中を自走できるわけではなく周囲の空気の流れに乗って移動します。したがって、マスクの効用はウィルスを除去するというよりは自分の呼気を自分のすぐ近くに留めておくことであり、自分のすぐそばにウィルスが大量にいない限り感染の危険は少なくなります。新型コロナもまだまだはやっていますし、そのほかにも感染症は多くありますので、人が多数集まる場所ではなるべくマスクをした方がよいと考えています。

少し話が脱線してしまいましたが、みなさんの活躍と今後の放送大学の発展を祈念しております。なお、しばらくは面接授業を続けますので、みなさんには学習センターでお会いする機会もあるかと思えます。そのときはよろしく願いいたします。

## 「放送大学 思い出と学習センターへの期待」

### 客員教員 小林 雅之



この3月で客員を退任するまで、放送大学には本当に長い間お世話になりました。というのも私は1993年4月から1999年3月まで足立学習センター(前東京第3学習センター)の助教授として勤務しました。その間、『世界の教育』(宮澤康人先生と共著)と『教育・経済・社会』とその継続の『教育の政治経済学』(金子元久先生と共著)を担当しました。その後も、面接授業『高等教育論』や『大学の現在・過去・未来』や『教育機会と教育費負担』などを担当したり、自主ゼミなどをつうじて放送大学特に東京第2学習センターとの関係は続きました。そして、東京第2学習センターも東京文京学習センターと名称も変わり、2010年より東京文京学習センター客員教員として、断続的に今日まで勤めさせていただきました。

この最初の赴任からの30年間には、語り尽くせぬほど、多くの思い出があります。スウェーデンやイギリスへの授業作成のための取材旅行、台北でのアジア公開大学連合での会議といった海外出張も、毎年の学習センターでの研修旅行も忘れられない思い出です。

この間、大学を巡る状況は大きく変わりました。大学評価制度の導入、大学の法人化、18歳人口の減少、そして何より近年のコロナ禍がありました。大変な事態でしたが放送大学も私の所属大学も、教員や職員の創意工夫でなんとか乗り切ることができました。マイナス面ばかりでなく、このコロナ禍によって、日本の大学では普及が遅れていたオンライン授業が普及したことも大きな変化でした。

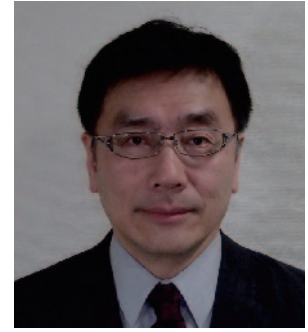
文部科学省の中央教育審議会では2018年の「グランドデザイン答申」で学修者本位の大学という、これまでの大学教育を大きく転換する方針を打ち出しました。私の現在の勤務校である桜美林大学でも教育探究科学群というまったく新しい教育に取り組み、日々試行錯誤を繰り返しています。

専門である学生への経済的支援制度についても、2017年に日本で初めて日本学生支援機構の給付型奨学金と所得連動型返還制度が創設されました。さらに、2020年度には、学生の修学支援新制度が創設され、学生支援も大きく動き出しました。さらに、制度の拡充も予定されており、今後の推移から目が離せない状況です。

放送大学は、通信制の大学ですが、放送によって授業を配信しています。放送は不特定多数を対象としているので、公平性が重視されるのに対して、通信は特定の対象者に対するものなので、検閲は許されないという放送と通信の相違が問題となったこともありました。しかし、この相違もこのアフターコロナでは大きく変わっていくでしょう。技術の進歩によって、面接授業と放送授業の相違も今後ますます小さくなっていくことと思います。それでも、当分の間、面接授業の重要性は揺るがないと思います。人と人が対面で授業する効果は現在の技術ではまだ、放送授業やオンライン授業よりずっと高いからです。その意味では、むしろ、今後、学習センターの役割が大きくなることを期待したいと思っています。

# 「退任のご挨拶」

## 客員教員 細谷 浩史



東京文京学習センターの皆様、こんにちは。2024年3月までの客員教員任期も残りあと数か月となりました。

放送大学とのお付き合いは、私の専門である細胞生物学分野の授業を担当させていただく事から始まりました。ご縁をいただき、2019年4月からは生物学分野の客員教員として、3階の実験室の整備が主な役割となりました。先任の森先生（化学分野）と共に、実験に使用する薬品類を整理し、古い薬品や使用可能な薬品を仕分けする仕事が最初の作業となったことを覚えております。実験室に設置されている $-80^{\circ}\text{C}$ の超低温槽には、歴代の実験担当の先生方が使われていた諸物が保存されており、こちらも少しずつ仕分けをして整理する作業が続きました。その都度、適切なサジェスチョンを頂きました所長や事務長、センター事務職員の方々に心からお礼を申し上げます。

一方、以前から実施されていた客員教員による自主ゼミが、一昨年「客員教員ゼミ」として再発足いたしました。私も生物学分野でゼミを担当、事務室で定期的にゼミ生を募集して頂き、現在では15名ほどのゼミ生の皆さんと月一回生き物百般にわたる話題で様々な議論を楽しんでおります。客員教員ゼミを続けて感じておりました事を一つ：昨年退任された星先生が退任挨拶の中で、「…… 教師は確かに、自分の担当分野に関しては、他の学生と違うかもしれませんが、それぞれの学生は、別の世界では、教師が持っていない様々な経験や知識を持つ人達でした。だから、放送大学の学生さんたちとお付き合いをすることは、私の知らない様々な世界の、実に多様な知識を教えてもらえる場でもありました。」と仰っておられます（文京通信No.15）。あまりにも私を感じていたことと同じでした。様々なバックグラウンドのゼミ生の皆様が集まると、登場する生き物の種類も幅広く、語られる知識も豊富。原生生物が専門と言っても「繊毛虫」に限定、それもごく一部のミドリゾウリムシばかり毎日眺めて居る私は、ゼミをオリンピック（大き過ぎ？）に例えると「各国、いや各競技代表」の一人の様な気分で毎回の試合（ゼミ）を乗り切っておりました。その客員ゼミも後二回。皆様、5年間たいへんお世話になりました！



ゼミ生と一緒に



所長 熊野 純彦 『私自身のための優しい回想』 フランソワーズ・サガン

忘れられない出会い、時間すら癒しがたい別れの記憶が誰にでもある。サガンは本書で、ビリー・ホリデイやテネシー・ウィリアムズと過ごした日々を想起し、オーソン・ウェルズやサルトルとの交流を回想している。

はるか海峡を越えて彼女の歌を聴きにきた作家たちに、ビリーは“*How crazy you are!*”と呟き、仲間たちとの親密なセッションに迎え入れる。ビリーは「二人のポリ公にはさまれて」、ひとり病院の一室で死んでいった。ウィリアムズは同性の恋人とともに老女を看取り、自身はアルコールとドラッグにまみれて世を去った。ウェルズはフランソワーズを「まるで衣服袋みたいに」小脇に抱えて、パリの街を疾走する。晩年失明したサルトルと、サガンは十日ごとにディナーをともにし、サルトルのステーキを切りわけた。回想のすべてはセピア色に淡く彩られ、どれも暖かく、そしてどこか切ない。

フランソワーズ・サガンは『悲しみよ こんにちは』で衝撃的なデビューを飾った。本書は「ニューヨークは四角四面に裁断された、風通しのいい、健康な、大気あふれる都会で、そこに二つの河、ハドソンとイーストリヴァーが長々と横たわっている」とはじまる（朝吹三吉訳、新潮文庫）。フランス語を読むひとは原文にふれられるとよい（*New York est une ville de plein air, coupée au cordeau, venteuse et saine, où s'allongent deux fleuves étancelants : l'Hudson et l'East River*）。音楽的な文体は、華やかな悲しみに満ちたフランソワーズそのひとの生と似ている。それでも、悲しみがそのまま不幸ではないことを、「最上の思い出とともに」（*avec mon meilleur souvenir*、本書の原題）、サガンは読者に語りかけているかのようなのである。

客員教員 小又 志郎

私の専門に関係する物理と数学からそれぞれ1冊、それ以外から1冊をご紹介します。

・江沢洋『だれが原子をみたか』（岩波現代文庫, 2013年）

初版はシリーズ「岩波科学の本」の1冊として1976年に刊行されたハードカバーの本で、そちらで親しんでいる方もおられるでしょう。すべての物質は原子からできているということをわれわれはどこかで学びますが、それが科学的にどのように確かめられたのかをあまり問題にせず信じていることも多いです。常識とされていることでも「それは本当なのか？」と一度は疑ってみるのが、科学的探究の出発点となります。この本は、原子に関する科学的知識が確立するまでの苦闘の歴史を振り返りながら、そもそも科学的に考えるとはどういうことかを問い直す機会も与えてくれます。

・藤原正彦『天才の栄光と挫折—数学者列伝』（文春文庫, 2008年）

著者はたくさん本を出されていて数学者であるということが忘れられているかもしれませんが、東京文京学習センターの近くのお茶の水女子大学でずっと数学の先生をしておられました。この本では、ニュートン、関孝和、ガロワなど古今東西の天才と呼ばれた数学者について、単に伝記的なお話だけでなく、著者自身がゆかりの地を訪ねるなど取材しており、とても実感のこもった書きぶりで読者を引きつけます。やはり数学者は数学に関する本を書くのが、筆が生き生きとしていて良いですね。

・セネカ『生の短さについて 他二篇』（大西英文 訳, 岩波文庫, 2010年）

専門の物理や数学以外では古典、特に西洋古典（古代ギリシア・ローマ時代の著作）を読むのが好きです。そのなかのどれを挙げてもよいのですが、ストア派の哲学者セネカの文章は、現代のわれわれに通ずることも多く、ときどき読み返します。この本には、「生の短さについて」「心の平静について」「幸福な生について」の三篇がおさめられています。古典ですからわれわれ現代人にとって読みやすくないところもありますが、これら三篇のタイトルからも想像されるように、日々の生き方へのヒントをもらえるかもしれません。



# 公認学生団体（サークル）の紹介

東京文京学習センターには、現在18の公認サークルがあります。  
今回は、「文の京通信No.17」に寄稿いただいた12サークルをご紹介します。  
ウェブサイトの公認サークル情報にも入会案内等をご紹介します。



**西洋音楽史研究会** 西洋音楽史研究会は、佐々木勉先生(放送大学非常勤講師/元名古屋音楽大学教授)による講義と音楽鑑賞で、西洋音楽史を年代順に詳しく勉強しています。昨年、会発足10周年を迎え、今までに開催した学習会は90回を超えました。今は古典派に入ったばかりで、これからハイドンやモーツァルトやベートーヴェンを中心にじっくりと勉強していきます。学習会は毎月1回、東京文京学習センターで日曜日の午後1時半から開催しています。また、年に1回、文集『楽譚』を発行しています。興味のある方は学習センターのホームページをご覧ください。



**アマチュア無線クラブ** 放送大学学生団体アマチュア無線クラブは、主に SNS ( Facebook ) 上で交流しています。( <https://www.facebook.com/groups/cqcqdeouj> ) リアルの活動実績としては、放送大学ラジオ放送周波数 77.1MHz の跡地利用の災害 FM 試験放送を放送大学東京文京学習センターで受信したことなどがあります。また代表である個人の活動になりますが、学習センターが文京にあることから文京区アマチュア無線局災害非常通信連絡会に参加させていただいており、アマチュア無線と防災について学んでおります。新規会員募集中であります。

**写真クラブ** 写真クラブでは、コロナ感染が始まる前は、クラブの例会、学園祭への参加、同窓会への協力など活動を活発に行っていました。コロナで活動は一時停滞しましたが、昨年センター施設が使用可能になり、秋より活動を再開しました。しかし多くの会員が、閉じこもり習慣のためか、写真撮影もままならず例会、撮影会など参加される方が激減しました。しかし反面昨年末よりなぜか新会員が急に増えました。新しくクラブのホームページを作り直したためと思われる。新会員の方が例会への参加が多いという現象も起きています。



**富永ゼミ「環境」** 2020年11月から、Zoomによるオンラインで開講されている。2023年度も、広く「環境」の問題について「土壌の問題」「市場経済の問題」「科学リテラシーの問題」等を取り上げた。Zoomのホストは、富永先生、元センター所長の岡野先生にお願いしている。さまざまな角度からの話し合いが出来るようになり、視野が格段に広がっている。このゼミを通じて、自分の考えを、分かり易く人に伝える訓練と、人の意見を聞いて、理解する能力を訓練をすることが目標。教養を高めコミュニケーション能力の向上を目指している。

**ボールルームダンス研究会** 社交ダンスサークルでは楽しく踊って上達を目指します。コロナ休止後少しずつ準備して、現在は先生の丁寧な指導の下 B1 の部屋で着実に練習を積み重ねています。茗荷祭では成果発表も兼ねて将来に繋がる参加型の楽しめるイベントとしてダンス講習会を実施します。人気種目であるワルツ、タンゴ、ルンバ、チャチャをやります。参加者のレベルに合わせてそれぞれ踊れるようにします。見せるダンスではなく踊って楽しむダンスであるので全員が楽しめるようにオープンスペースを考えています。気分転換にモダンとラテンのデモもやります。



**ドイツ語学習会** ドイツ語学習会は、ドイツ文化への理解を深めることを目的として、テキストを定め例会において内容に関する検討を行っています。これまでにエーリッヒ・ケストナーの「飛ぶ教室」フェルディナント・フォン・シーラッハの「犯罪」、ヘルマン・ヘッセの「車輪の下」などを読み合わせ研鑽に努めております。

**陸墨会** 墨彩画の技術向上と、会員同士の親睦を図る目的で、昨年発足したばかりの学生団体です。非公認サークルとして、2019年5月から活動を始めました。会員も増え、文京学習センター講義室で、毎月木曜2回開催しています。講師は「墨彩画」の面接授業の講義をされている陸偉栄先生にお願いしています。毎年、展覧会を川口総合文化センターで開催しており(今年度は会場が改装のため未定)、スケッチ会も季節の花木を求めて、都内公園等で随時開催しています。



**文京合唱団** 文京合唱団は定期的な練習に出ているのは15~20名ぐらいで、コロナの間もネットおよび遠隔合唱で練習を続けてきました。その結果、昨年の9月には埼玉SCの学園祭(文京SCはまだ中止)に参加し、アカペラの曲を10曲ほど歌いました。歌う曲は一言で言えばなんでもありますが、組曲ではFauré Requiem、月とピエロ、ふるさとの四季、水のいのちなどです。また、信長貴富氏の曲を中心にいくつかの単曲を歌ってきました。入会の仕方などについては、「放送大学文京合唱団」のWebをご参考に。

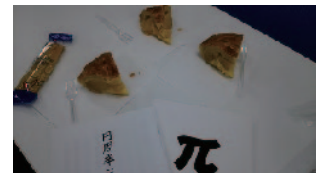


**テーブルゲームサークル** 2023年7月発足。一般的には「ボードゲーム」ですが、ボードを使わないゲームも多いので「テーブルゲームサークル」に。人数が多いと楽しめるゲームも増えるので、他学習センター所属の方も機会がありましたら、是非お立ち寄り下さい。また、多くの大学でボードゲームサークルはあり、児童館、シニア活動センター、企業、社会人有志メンバーなどでも、広く楽しまれています。いつか全国の学習センターにサークル支部を作るのが目標。活動詳細は文京学習センターのサークル紹介をご参照下さい。学祭などのイベントでは体験会を予定。



お問い合わせはQRコードから(LINE)→

**科学サークル** こんにちは。科学サークルです。科学が好きな人はもちろん、これから科学が好きになる人も大歓迎！これまでの活動は、学習センターの講義室での勉強会の他、外部の企画への参加や見学会などお出かけ企画もあります。Googleで「科学サークル」と検索すると何故かトップに我々、放送大学の科学サークルのWebページが表示されます。会員同士の交流用にFacebookのグループページやメーリングリストもありますよ。科学の難しい話で盛り上がりたい方も科学を楽しみたい方、学びたい方もどなたでもご参加いただけます。さあ、あなたも楽しく科学しましょう！写真:「 $\pi$ 」の日のパイ(私たちの恒例行事には、3月14日に集まって、おもむろにパイを食べる、という「 $\pi$ 」の日があるのです。)



**英映会** 英映会は、その名称の通りDVDによる英語を背景とする映像を鑑賞することによって英文化への理解を深めることを目指しております。これまで「ローマの休日」「刑事コロンボ」「ウエスト・サイド物語」「哀愁」「第三の男」「グリーンミラー物語」などを見てお互いに感想を語り合い親睦を深めてきました。必要に応じてテキストを用意し予め十分に自学自習し自主的に発表しあうこともあります

**哲学の会 めてうす** 当サークルは、筑波大学名誉教授・前放送大学客員教授の河上正秀先生を顧問に迎え、思索することの意義を会員共同の哲学研究活動を通じてより深く理解し、人間と世界に対する視野を広め、会員相互の啓発と親睦を深めることを目的としております。主な活動としては、原則週一回の勉強会や懇談会、映画鑑賞、学習センターの客員教授による講演会の開催などを行っております。また屋外の活動としては、博物館の企画展の鑑賞や、史跡散策を兼ねてのハイキングを実施しております。(放送大学学生団体 哲学の会【めてうす】(t-metheus.com))

2024年度は5年ぶりに、サークルを中心に茗荷祭(学園祭)を開催する予定です!

# 行事のご報告 (2023年・後半)

## 8月6日(日) 研究成果発表会

前年度から始まった研究成果発表会、昨年は Zoom でしたが今年是对面で行いました。新たに東京渋谷学習センターも加わり、「東京文京学習センター」「東京学友同窓会」「東京渋谷学習センター」共催で行い、4名の方に発表していただきました。これから卒業研究を始める方、何回目かの挑戦の方、既に卒業して発表を聞きに来ている方…、皆さん、様々な視点で興味深く聞いていらっしゃいました。研究成果発表会は2024年度も開催予定です。



### 【今回発表された方の研究題目】

「アハラノフ・ボーム効果アハラノフ・キャッシャー効果と電磁角運動量」

「子どものいない夫婦の特性—全国社会調査(JGSS-2012)の分析と当事者への聞き取りから—」

「パリ講和会議における南洋諸島問題の議論」

「障がい児・者の兄弟姉妹がいるヤングケアラーの実態と現状～障がい児・者の兄弟姉妹がいることをカミングアウトする困難とは～」

## 9月17日(日) 卒業証書・学位授与式

2023年度第1学期ご卒業の159名の  
皆様、ご卒業おめでとうございます

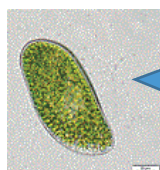
皆さまのご健勝を心よりお祈り申し上げます。  
同窓会への入会もお待ちしています。



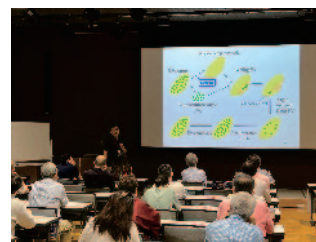
## 9月24日(日) 公開講演会・細谷浩史先生

「ミドリムシにない“ミドリゾウリムシ”の魅力を語る」

今年度で退任される  
細谷先生のご挨拶は  
P4に掲載しています。



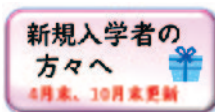
動物？  
植物？



## 10月7日(土) 入学者の集い

2023年度第2学期ご入学の1273名(リピーター含)の  
皆さま、ご入学おめでとうございます

東京文京学習センターのウェブサイトのトップページ「新規入学者の方々へ」を  
クリックしてください。所長、客員教員のご挨拶や、  
学び方ガイドスの動画もご覧になれます。  
東京文京学習センターでお待ちしています！



発行者 東京文京学習センター 機関誌「文京通信」編集委員会

〒112-0012 東京都文京区大塚 3-29-1 電話:03(5395)8688 メール:bunkyo-sc@ouj.ac.jp